

自己評価結果公表シート

2019年度

1、法人理念

三快五感の子育て

- 【三快】 よく食べ（快食） よく遊び（快遊） よく眠る（快眠）
 【五感】 目 目を大きく見開き 遠くも近くもよく見る子
 耳 耳を澄まして 大小の音を聞き分ける子
 鼻 鼻を利かせ 善悪をすどく感じる子
 口 舌を生かし すいも甘いも理解する子
 手 手を使い なんでもよく体験する子

2、願う子どもの育ち

健康で明るい元気な子

不思議を探し、発見をいっぱいする子

うれしい時、かなしい時、人の気持ちがわかる子

3、保育方針

園内にある「まいまい山」は小動物や野鳥、昆虫が子どもたちを迎え入れてくれています。四季を感じられるたくさんの自然に囲まれて、子どもたちは小さな「命」に触れながら、自らの「命」を実感します。

子どもは一人ひとり成長の段階も、興味を持つことも様々。本園では、生きる力の源である意欲や自信を、一人ひとりの子どもと丁寧に関わることで育みます。

乳幼児期の子どもたちにとって「生活＝教育＝遊び」です。子どもの発達に合わせた遊びの環境を充実し、豊かな遊びの中で子どもが主体的に活動に取り組むことを大切にします。

4、「子どもの育ち」のために

- 子どもが何に心を動かし、何を表そうとしているかを知り、表現する喜びを十分に味わわせるようにする。
- 遊びや自然体験を通して、子どもが感動する場を大切にしていける。また、保育者も子どもと共に夢中になって遊びに取り組むことで、遊びを充実させていく。
- みんなで遊ぶ場を設け、共に遊ぶ中で、自分の気持ちを伝えたり、相手の気持ちに気付いたりする場を生かしていく。
- 子どもの興味関心を把握し、季節や実態および狙いにあった環境を構成しながら、その場に応じた援助をする。
- 遊びの中で少しでもできるようになったことを褒め、認めていくことで意欲を持たせていく。
- 年齢に応じた基本的生活習慣の実態を把握し、子どもが無理なく身に付けることができるような環境を工夫し、援助していく。

5、評価項目の達成状況

評価項目	評価項目詳細	職員の自己評価ポイント平均（3点満点）
I 園の基本姿勢について	教育・保育理念や目標の理解 認定こども園としての社会的責任の理解 子育て支援業務についての理解 発達の重要性を理解 職員として心構え 等	1.77
II 認定こども園教育・保育要領	第1章 総則	1.70
	第2章 ねらい及び内容並びに配慮事項	1.87
	第3章 指導計画作成にあたって配慮すべき事項	1.65
III 園独自の取り組みについて	保育方針の把握 学園化構想に対する理解 内部・外部研修への意欲を持った積極的な参加 市・地域の事業へ園が積極的に参加していることの理解 等	1.97

自己チェック評価表

	今年度の評価点	今年度の課題点	次年度への改善点
個人評価	視点		
	1、教育課程や指導計画等に設定した「目標」「ねらい」は達成できたか。また、前年の反省評価は生かされたか。 2、日々の教育・保育に必要な環境構成及び設定は適切だったか。 3、園児の状況に応じて柔軟な教育・保育ができたか。また、自身の教育・保育技術の向上を必要とした部分は。 4、保護者との連携は十分に取られていたか。 5、社会人として、また、教育・保育の専門家として資質向上に努め、成果を上げることができたか。等		
	・子ども達が遊びやすい環境を常に心がけることができた。また、遊びを発展していくための声掛けもなるべく多くできるよう意識した。 ・保護者と園での様子、家庭での様子を共有していくことができた ・子ども達の自立を見守り、分かりやすく助言したり、共に挑戦したりした。 ・子ども達の発達課題を見極めながら環境や玩具を整えるよう気を付けたこと。 ・前年度に比べ、わらべうたのレパートリーが自分自身増えたため、保育の中で取り入れることを心かけた。	・保護者と丁寧に関わっているつもりが、至らない点も多くあり、度々指摘を受けた。また、その子のことをうまく伝えられず、困り感が伝わりづらかった。 ・コーナーごとのあそびの応用ができず、あそびがワンパターンになっていた。 ・毎月の幼児の課業テーマに合わせ、乳児の室内もキーハウスの写真や絵本を選んだが、そのテーマを0歳児だったら…と考えるのが難しかった。	・子どもの成長とその時の状況把握をすぐに行い、分かりやすい声かけをする。 ・視野を広げて保育しながらも、一人一人の遊びから何を楽しんでいるか、よりよくなるためには…と考えながら保育すること。 ・成長を促すため、更に上のレベルの遊びを提供する事も大事であるが、個人差があるため、今の年齢よりも下なものなども用意し、一人ひとりに合った環境を整える上で、0歳児～の年齢に必要な遊びをさらに理解する必要がある。
クラス運営評価	視点		
	1、保育教諭等の間で必要な連携がとれていたか。 2、保育教諭等の間で必要な情報を共有できていたか。 3、主幹保育教諭等の上司と十分な話し合いの上で計画が作成できていたか。 4、クラスとして必要な記録を残すことができたか。 5、部屋の環境構成（物の配置等を含め）適切だったか。		
	・副担任との連携を意識し、保育の内容や子ども達一人一人の情報をしっかり話し合うようにした。 ・就学に向けての活動に取り組むことができた。 ・担当制保育を意識しながら、全体で子どもたちの成長を見守ることができた。 ・遊びが続かない子どもが多く悩まされることが多かったため、クラスの職員間での話し合いは細目に行い改善に努めた。クラスで話し合ったことを主幹保育教諭などの上司にも伝えることでアドバイスをもらい、さらに保育の改善へとつながった。	・それぞれの課業を見合ったりするなどの職員同士の園内研修の機会が思うようにとれなかった。 ・各コーナーごとに遊べている子、そうでない子を見極めて。職員で共通理解すべきだった。 ・0歳児はまだ午睡時間が短く、保育日記、エピソード記録を書くだけで昼の時間が終わってしまうことが多く、クラスの職員で子どもたちの事や室内環境について話し合う時間があまりとれなかったこと。	・室内の環境を定期的に見直していくことができるように遊びを見守っていく。 ・職員間で話し合う時に、担当の子の遊びについて話し、対応していく方法をより考えていき、共通理解していく。 ・前期は室内の環境を2歳児の姿や遊べる子の姿に合わせることが多く、遊べない子にとっては遊び方が難しかったり分からない子も多かったと思う。子どもの姿をきちんと捉えて室内環境を整えていく。
園全体評価	視点		
	1、園全体として行事の内容及び運営は目標に沿って行われたか。 2、職員の研修内容とその成果は現場に反映されたか。 3、教育・保育内容の公表に努力をしたか。また、その方法は適切だったか。 4、小学校や地域の関係機関との連携に向けて必要な努力をすることができたか。 5、園全体としての今年度の教育・保育の目標やねらいは達成されたか。等		
	・各々のクラスだけではなく、子どもの発達状況や援助方法などの情報の共有ができ、園全体で子どもたちの成長を応援できたように思う。 ・行事や保育内容についても計画に沿いながらも子どもの姿をとらえて、応答性のある実践へとつなげることができていた。	・様々な変更点や共有すべき情報が統一できていない部分も見受けられた。 ・事故や保護者への伝達事項はもちろんだが、乳児・幼児といった部門ごとの変化や子どもの様子等についてもしっかりと共有できるようにする必要がある。	・保育内容の理解や課業の実践について園全体での理解をさらに高めていく必要がある。 ・新しい職員も迎える中で、基礎基本を園全体で再確認していく必要がある。